世界につながる学びの場

2004年度 第11期 地球市民アカデミア

21世紀の地球社会
あなたはどう生きますか？

第11期生 募集要項

●開催期間
2004年5月～2005年2月（全16回／合宿3回を含みます）

●募集対象
・国際協力や国際教育の分野で活動したいという意欲のある人
・グローバルな問題に関心のある人
・原則として全回参加できる人
・18歳以上の人
・他の受講生と協力しながら受講できる人

●定員 35名（先着順）

●参加費用 54,800円（学生のみ分割払い可 応相談）
・登録費、受講料、資料代、後期グループ活動費等が含まれます
・合宿費用は別途かかります

●会場 東京YWCA（東京都千代田区神田駿河台1-8）

●募集締切 2004年4月23日（金）必着

●申込方法 所定の用紙に必要事項（氏名、住所、電話番号、所属、志望動機）をご記入の上、下記までお送り下さい。FAX、E-mailにても受け付け可

会場案内図（東京YWCA）

●お申し込み・お問い合わせ「第11期地球市民アカデミア」事務局
〒112-8585 東京都文京区小日向3-4-14 拓殖大学 国際開発教育センター気付
TEL:03-3947-7953 FAX:03-3947-7958
E-mail:academia@csc.jp URL:http://www.gc-academia.org

受講生の声

職業、世代など生活背景の全く違う人々の集まりなのに違和感がなく、本音で付き合える仲間と出会える場所。学生も社会人もみんなの声が自然に通る「アカデミア空間」はみんなが元気を持ち帰る、貴重な場所でした。今でも共に学んだ仲間は宝です！

横山葉子（NGOスタッフ 1期生）

私はアカデミアで「よく生きる」方法を学びました。共働学習で「気づき」について深く掘り下げ、特に環境教育の分野に興味を持ちました。…すべてのもののつながりを感じられる、そんな瞬間がいっぱいある講座です。

木邑優子（青年海外協力隊 2期生）

これから何をすべきか、いろいろ探し回って行き着いたのがアカデミアでした。年間の講座を通じて、いろいろな出会いがあり、自分と世界がつながりました。互いによい影響を与え合うことができる、心地よい時間でした。

高橋英一郎（児童指導員 3期生）

仕事をしているうちに袋小路に陥ってしまったものの見方、生き方などを一旦壊して再構築する機会を与えてくれた場所。講師からはもちろん、受講生や運営委員との関わりの中で気づくことが多かったです。グループで作成した「たばこ」教材は大阪のコンテストで入賞！現在も教材に改良を加えながら活動中。

杉本伊知郎（会社員 6期生）

教員になって十数年、学校を飛び出して、一人の市民として学び、活動してみようとアカデミアへ。誰かに何かを投げてもらうのではなく、自分から仲間を作り、話を聞きたい人に会い、共に一歩を踏み出すことの心地よさと難しさ。18歳の大学生も40代の社会人も「私」に戻って円くなって座る。それがアカデミア！

柏村みね子（教員 4期生）

地球規模の問題を考える際にぶち当たったのは、まさに自分の足元、自分の心の内でした。そして「目を向けていなかったもの、聞かされてこなかったもの」に目を向け、聞くことの重要性に気づきました。

吉田里織（家庭科教員 7期生）

私にとってのアカデミアは「他」を知って「自分」の視野を広げさせてくれる新しい発見に溢れる空間でした。そしてここで、「他」として見てきた物事が決して「自分」とは無関係でないことを知りました。

折田三実（会社員 10期）

"すべてのもののつながりは、ひとのつながり"
アカデミアの仲間との出会いによって、点が線となり、面となっていくことを実感しました。小さな感動も、鮮やかな感動へと変えることができる。いろんな出来事にぶち当たった時、生きていることに感謝する瞬間その想いを伝えたい仲間がそこにはいます。

堀内聡子（学生 9期生）

アカデミアは仕事も年齢層も様々、多種多様な人達と自由に議論し、色々な人の考え方が覗けるところ。私自身も学生時代と比べ考え方が変わった自分を発見することができました。アカデミアは自己発見・再認識の場になるのではないでしょうか。

鈴木徳（極木職人 5期生）

国際協力や地球環境などの話題を通じた人間について、講義とワークや体験を通じて、アカデミアならではの世界観が醸成されます。世間ではマイナーなことがこの場ではメジャーなこと。同じ時間を共有し、共に考える仲間に出会うために、是非、飛び込んでみて下さい。

志津安紀（市役所職員 8期生）

第11期地球市民アカデミア事務局
〒112-8585 東京都文京区小日向3-4-14 拓殖大学 国際開発教育センター内
TEL：03-3947-7953 FAX：03-3947-7958 e-mail：academia@csc.jp URL：http//www.gc-academia.org

～地球市民アカデミアは主に修了生が企画・運営し
さまざまな団体の協力を得ながら、広いネットワークの中ですすめられています～

協力・後援団体

（準学）アジア学院
アジア・アフリカ諸国からの研修生が、食糧生産の基本、農村生活改善、よりよいコミュニティづくりを、生活体験を通して学んでいく農村指導者養成校です。

東京YWCA専門学校
半世紀以上にわたり、社会の中で自立できる人づくりを目指し、実践的な教育を提供しています。社会福祉科は、福祉分野でのパイオニアとして高い評価を得ています。

（特活）国際協力NGOセンター
地球的諸課題に取り組む市民組織NGOの活動支援を目的に、NGOに関する情報収集・提供、広報、調査研究、人材育成、国内外のNGOとのネットワークを進めています。

（社）協力隊を育てる会
民間の立場から青年海外協力隊事業への理解を深め、協力隊活動に対する支援の輪を広げることを目的に、情報誌の発行や各地で国際理解セミナー等を行っています。

東京ボランティア・市民活動センター
都内のボランティアやNPOに関する情報提供や相談などを通じて、都民のボランティア・市民活動を支援しています。調査、研修、会議室貸出、活動助成も行っています。

『地球市民アカデミア』とは

貧富格差の拡大、地球環境危機の高まり、民族紛争の激化など、世界をめぐる状況はますます深刻化しています。そのような世界の状況に対して、私たちは一人の地球市民として何ができるのでしょうか。「地球市民アカデミア」は、国際協力や国際教育を通じて世界への働きかけを志す人々のための新しい学びの場です。

＜同時代を共に生きる地球市民＞

国際協力や開発援助に関する様々な意見がありますが、異なった社会状況の中、厳しい条件の下にある人々と共に生きようとすることは、学問の枠におさまるものではありません。これからの地球社会に求められているのは、発展途上国といわれる国々に生きる人々を援助や研究の対象として見るのではなく、同時代を共に生きる人間として理解し合い、共感できる力と感性を持った地球市民なのです。

＜地球市民アカデミアがめざすもの＞

この講座では、将来国際分野での活躍を志す者が、現在の社会状況を正しく理解し、必要な専門知識やものの見方を学ぶと同時に、実際に国際協力や国際教育に携わる人々の経験に学んだり、自ら選んだテーマを追究し、活動現場への訪問などを通して現実感のある学びを創り出します。そして、なぜ国際協力を必要と考えるのか、どう関わりたいのか、何ができるのかを深く掘り下げながら、自分自身の価値観を問い直し、これからの社会を創っていく上で大切な他者との協力関係の築き方を学んでいきます。

＜共働学習による新しい学びのスタイル＞

従来、講座というと講義を受けるというイメージがありました。しかし、実際に国際協力、国際教育を実践していくには知識や情報を身にまとうだけでなく、それらをメッセージやアクションに変えていくことが必要です。そのためには、実体験や試行錯誤を通じて、異なる背景や意見を持つ受講生同士が互いに学び合う場が必要となります。「地球市民アカデミア」は、そんな今までにない新しい学びのスタイルを提案しています。

「地球市民アカデミア」の流れ

地球市民アカデミアは今年で11年目を迎えました！

11年目を迎える地球市民アカデミアは、多数のオプション企画を予定しています（但し、実費負担）。修了生を訪ねるスタディツアーやさまざまなテーマにそったフィールドワーク、国内スタディツアーの実施、修了生たちの集まりである「アカデミア・ナッツ」関連イベントなど、多くの人と交流をする機会が盛りだくさんです。もちろん11期生の皆さん自身が自主的に企画しても結構です。
学びの場としてのアカデミアを是非、最大限に活用してください。

1 オリエンテーション合宿
『環境と共生』
5月28日（金）夜～30日（日）
於：アジア学院（栃木・西那須野）
講師：高見敏弘氏【地球市民アカデミア校長、アジア学院創設者】

「国際協力とは？地球市民とは？」と考える前に、まず土や緑、"いのち"に触れ、食、農、環境、ひととのつながりを感じます。この合宿では農作業やアジア・アフリカ諸国からの研修生との交流などを通じて、これからのアカデミアでの学びの方向性を探ります。

2 『国際協力とは？』
6月5日
講師：大橋正明氏【恵泉女学園大学、（特活）シャプラニール＝市民による海外協力の会代表）】

開発と国際協力の歴史、理論的潮流を概観します。バングラデシュ、コソボなど長年にわたりNGOの国際協力の第一線で活動してきた講師の体験から実状を学び、私たちに何ができるのかを考えます。

3 『紛争の現場から』
6月26日
講師：佐藤真紀氏【（特活）日本国際ボランティアセンター】

紛争の現場では、何が起き、そこにいる人々はどのような痛みを負っているのでしょうか。NGOとしてパレスチナ・イラクなどで支援活動に携わってきた講師から現地の実状を聞き、知ることの意味を考えます。

第11期 地球市民アカデミアカリキュラム
合宿以外の受講日はいずれも
土曜日13：30～17：00です

4 『貧困～見えてないこと、見ていないこと』
7月10日
講師：稲葉剛氏【NPO法人自立生活サポートセンター・もやい代表理事】

貧困は遠い国だけの問題でしょうか？ 豊かといわれる日本の中での貧困－ホームレス問題など－は、その人の責任によると思われがちです。今、目の前にある事柄を通じて、貧困を生み出す社会構造や、人が人らしく生きるとはどういうことかを考えます。

5 『世界の読み方・語り方』
7月24日
講師：野中章弘氏【アジアプレス・インターナショナル代表】

多様なメディアを通して私たちは溢れる情報に接しています。しかし、それらを多面的に受け止め、「真実」を見出していると言えるでしょうか。イラクや北朝鮮などの報道を通して情報をどう読み取り、語っていくかを考えます。

6 『学び・生きる場の発見』
9月11日
講師：下羽友衛氏【東京国際大学教授】

ひとりひとりが思い巡らす「なぜ？」という疑問は学びの出発点です。それが、自分から他者・社会につながっていき、大きな力になっていくのではないでしょうか。私たちがこれから学び、生きる場をつくるために、自分と世界のつながりを知り、知識と行動を結びつけていきます。

7 『企業と市民の社会的責任』
9月25日
講師：菊地健氏【松下電器産業㈱社会文化グループ（兼務）CSR担当室】

社会の中で「企業」とはどのような存在なのでしょうか？私たちとどのような関係があるのでしょうか？ 企業や市民が社会に対してどのように責任を持ち、協働しながら貢献していけるのか、私たちの積極的な関わり方を考えます。

8 秋合宿
『自分の足元を見つめて』
10月16日（土）～17日（日）
講師：金香百合氏【ホリスティック教育実践研究所所長】
於：BumB東京スポーツ文化館（江東区夢の島）

世界の諸問題に関わる際には、自分自身への理解も必要です。マイノリティやジェンダーについてのワークショップを通して、自分の足元を見つめ直します。そこから他者、社会との望ましい関係の築き方を考え、後期の共働学習へとつなげていきます。

9～15 共働学習
10月23日、11月6日
11月20日、12月4日、12月18日
1月15日、1月29日

グループ内での学びを通して、共に協力することを体験します。自分自身のテーマを明らかにした上で、グループごとのテーマを確定し、共働作業に入ります。NGOへの訪問、イベントの企画や国際教育教材の作成など、各グループ独自の活動を展開します。

16 プレゼンテーション合宿・修了式
2月11日（金）～12日（土）

この合宿では、約9ヶ月間にわたる学びやグループ活動の成果を互いに発表し合い、共有します。今までのあなたとどう変わっているのでしょうか？
修了式を経て、地球市民としての次なるステップへとつなげていきます。